

テーマ「地域包括ケアシステムとその課題」

川尻・安浦地域包括ケアシステムを樹立する会（以下、樹立の会）は、3年目に突入し、「地域の取り組みを知っていこう」という目標に添って、計画を立てています。

この度、7月17日（水）に川尻・安浦地区の県議会議員・市議会議員をお迎えし、樹立の会を通じて、「地域包括ケアシステムとその課題」と題した講義を当法人理事長より行いました。

県議会議員・市議会議員の皆様からのコメントでは、このように熱い気持ちを持たれ、真剣に考えて下さる方が居ることへの感謝のお言葉を頂きました。樹立の会の数日前に新聞で、新広駅から川尻町小用までのバス路線が生活バスに移行するというニュースが流れました。そのことに対して、安浦町まで生活バスを走らせるようお願いしているお話や、コンパクトシティ化（ある場所に人・物を集中させ、そこで全てが賄える生活様式のこと）の実現、車が横付けできない家に、ゴルフカートのような小回りが可能な車を走らせることで外出支援が可能となる、明るいお話が伺えました。

その一方で、人口減、民生委員のなり手がいない、個人情報壁となり近隣との関わりが少ない、施設の老朽化による修繕など、多くの課題もあります。

でもこの度は、県議会議員・市議会議員の皆様生の声が聞けたことは大変な成果だと感じ、今後の地域包括ケアシステムの構築にお力が頂けるものと感じました。

講義終了後のアンケートで、この樹立の会の成果は？という質問がありましたので、簡単ではありますが、お答えしたいと思います。

1年目は、地域住民の方に「ケアビレッジたつき」に来てもらう、知って頂くための企画を考えました。1年目の最後の企画は、当法人理事長が樹立の会で実施したかった「コンビニの夜間輪番制」です。しかし、この奇想天外な発想とは少し異なるが、数か月後にはコンビニの24時間営業の見直しを検討する社会問題が生じ、ある意味、先見の明があったと言えるのではないのでしょうか？

2年目は、1年間の活動もあってか、西日本豪雨災害の時には「ケアビレッジたつき」が避難場所として、微力ではありますが、役割を果たすことが出来ました。これを機に、樹立の会に近隣住民の方の参加も増え、多くの方が集う場所になってきました。

この2点が成果と言えるかと思えます。

3年目の樹立の会にも多くの方々にご参加頂き、50年先も住み慣れた川尻・安浦地区で生活が出来る、基盤が出来ればと思えます。

